

みんゆう 随 想

満天の星空とは言えないが今日も天気は良さそう。

素泊まりパーティがスタートを始めた。我々は朝弁を受け取り一足遅れて午前3時半の出発となった。ヘツドライトを頼りに、小さなアップダウンとトラバースをひたすら登り、森林界を越えて大聖寺平（静岡市）を通過するころは、足下後方に小屋の灯り、北西彼方には伊那盆地の街灯りが見えた。

やがて東の空がうっすらと明るくなりライトのスイッチを切った。つづら折りの石礫を登ると3千呎の肩

渡辺 裕之

福島市・渡辺エンジニアリング取締役会長



にでた。今度はなだらかなら、いつしか感動と喜びの稜線歩きになり、ほどなく小赤石岳（長野・静岡県）に着いた。真夏でも寒さを感じる頂上での朝食は、ネタ違いの左側に榎島ロッジからの大倉尾根が迫力ある景観を見せている。南アルプスの最奥地で登山者泣かせの赤石岳は目前となり、分岐か

ら20分で山頂に到着。憚刻みに食べることにした。らず大声で「万歳！」。馬ノ背歩き、長い降りが東はご来光と富士山、北は昨日の悪沢岳から北岳に続く稜線。南には明日登頂の聖岳から茶臼岳。西遠方には扇状カールと木曾駒ヶ岳から空木岳、伊那山と60度の大パノラマに魅了され、気力と体力の勝負か

山に魅せられて (19)

ら20分で山頂に到着。憚刻みに食べることにした。らず大声で「万歳！」。馬ノ背歩き、長い降りが東はご来光と富士山、北は昨日の悪沢岳から北岳に続く稜線。南には明日登頂の聖岳から茶臼岳。西遠方には扇状カールと木曾駒ヶ岳から空木岳、伊那山と60度の大パノラマに魅了され、気力と体力の勝負か